

ねむろを愛する
素敵な人たち



「熱く語る北方領土問題に 若い力への期待が高まります」

市立啓雲中学校3年

なかむら かずのり
中村 一敬君 (15)

北方領土返還運動の原点の地根室では、市民が「一丸となった返還運動が力強く展開されています。6月28日には、啓雲中学校を会場に第32回根室市少年弁論大会が開催され、北方領土問題の部と自由課題の部で、各10名の中学生が熱い弁論を繰り広げました。

北方領土問題の部で優勝した啓雲中学校3年の中村一敬君は「未解決領土問題」と題して、世界の領土問題に触れ北方領土問題がなぜ進展しないかを、歴史的背景を折り込んだ弁論で訴えました。

『北方領土問題は、日本人がともに考えていかなければならない問題です。それぞれの考え方を提案し合い、一人ひとりの意識があってこそ解決への一歩となるのです。』と、弁論を締めくくっています。

「小学校で北方領土学習の時間がありました。その頃は、

領土問題は難しくてあまり理解ができませんでした。領土問題は毎日の生活の中で身近な問題として動いていて、根室に住む私たちにとって大きな課題であることを感じるようになりました。」と、中学校に進学し領土問題に関心を持つようになったと話します。元島民の方々が高齢となり、3世・4世の時代となった現在、中村君をはじめ中学生たちの領土問題に傾ける情熱は、今後の領土問題解決へ向け期待を感じさせてくれます。

弁論大会の入賞者は、北方少年交流事業などに参加し、全国に向けて早期返還を訴えます。7月26日には内閣総理大臣への訪問が予定されており、「僕たちの島々が早く帰るように訴えたいと思います。」と、中村君の輝く瞳からは、粘り強く続ける返還運動とともに育っていく、若い力とたくましさを感じました。

8月は「北方領土返還運動全国強調月間」。全国でさまざまな啓発運動が繰り広げられる中、根室市においても「ノサップ岬マラソン」などの啓発運動が展開されます。皆さんの積極的な運動への参加が、早期返還への第一歩となることに間違いありません。